

アナログラジオと不感対策

2005年2月2日
(株)文化放送

ラジオの特性と役割

- ラジオの機能的特長 簡便性、移動性
- ラジオの媒体的特長 ながら試聴(アイズフリー)

身近で親しみ易いラジオに対する聴取者の要望はデジタル時代も変わらない。

癒し 音楽・スポーツ中継・ワイド番組

情報 ニュース・天気予報・交通情報・教養、特に災害報道(ライフライン等)

アナログ放送、デジタル放送の如何にかかわらず、ラジオの役目は変わらず、本格的デジタル時代が到来しても、当面はそれぞれの役割を担いつつ、新たな手法を開発して聴取者の支持を獲得して行くであろう。

メディアとしての信頼性

- ラジオの信頼性は日頃の地域と密着したきめ細かな情報や音楽とパーソナリティ(喋り手)の親近感の上に成り立っている。

パーソナリティと聴取者との信頼感とはラジオにとって、他媒体に無い最大の武器である。

ex. ラジオショッピングでの見えない商品の売り上げの高さ、および返品率の低さがこれを証明。

ex. 民放連の全社参加の統一キャンペーンも常に信頼性を意識し実施。

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| ・二十歳の献血キャンペーン | ～ 1986(第10回) |
| ・交通事故撲滅キャンペーン | 1990(第1回) ～ 1993(第4回) |
| ・麻薬・覚醒剤撲滅キャンペーン | 1999～ |
| ・コトバのチカラ キャンペーン | 2003.09～2003.12 |
| ・地震フォーラム | 2003.08、2005.01 |

ラジオの役割と信頼性の上に

- 生活の利便性向上や災害への不安から、ビル内、ビル影、地下街、地下鉄、トンネル等の不感地域の解消や、もっとキレイな音で聞きたいという聴取者の要望は非常に高い。近年のたび重なる大きな災害の発生により、こうした不感地域への対策を望む声は更に強まっている。
- 今後、都市環境は更に高度化し多様な場所での聴取形態が発生する。アナログ放送、デジタル放送の如何にかかわらず、これら不感地域へ情報を提供するサービス要求がさらに強くなると考えられる。

地下鉄・地下街の現状

地下鉄

	延長キロ	1日当りの利用者
全国	694.5 km	1,336 万人
東京地区	290 km	767 万人
東京メトロ	180 km	567 万人
都営地下鉄	110 km	200 万人

* 都営地下鉄は全線でAM受信可能。

* 大阪地区の地下鉄利用者は1日当り270万人。

地下街

全国 19都市	75 箇所	108 万平方メートル
東京	13 箇所	22.6 万平方メートル

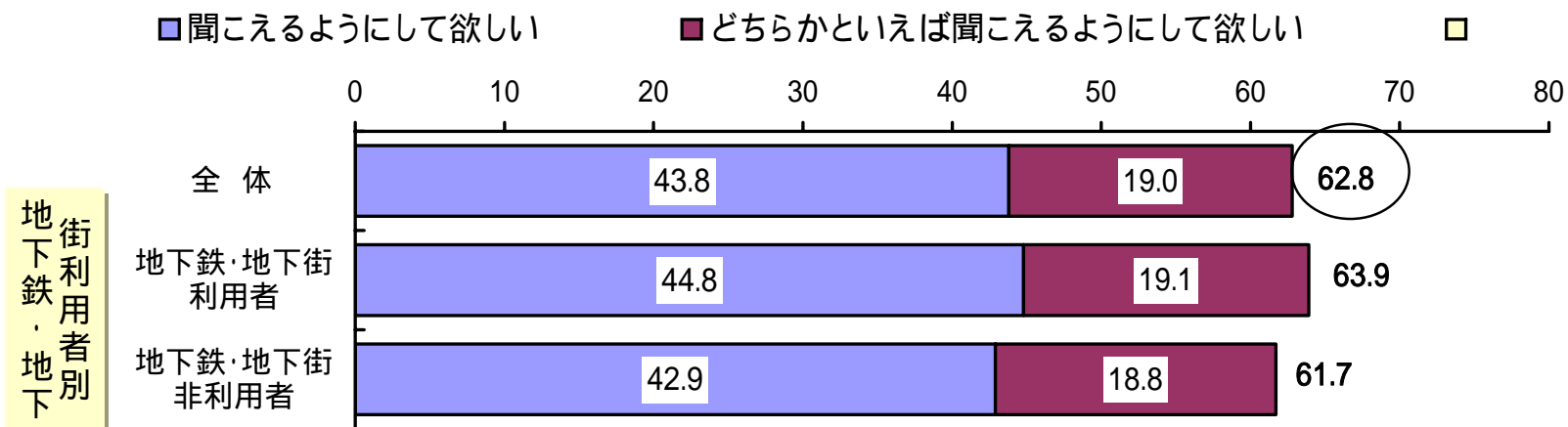
* 広島と東京の八重洲地下街は受信可能。

地下鉄・地下街におけるラジオの受容性

民放連ラジオ委員会「ラジオ受信機環境整備に関する調査」2004.11.26～2004.12.02

首都圏、京阪神、名古屋 2,015サンプル

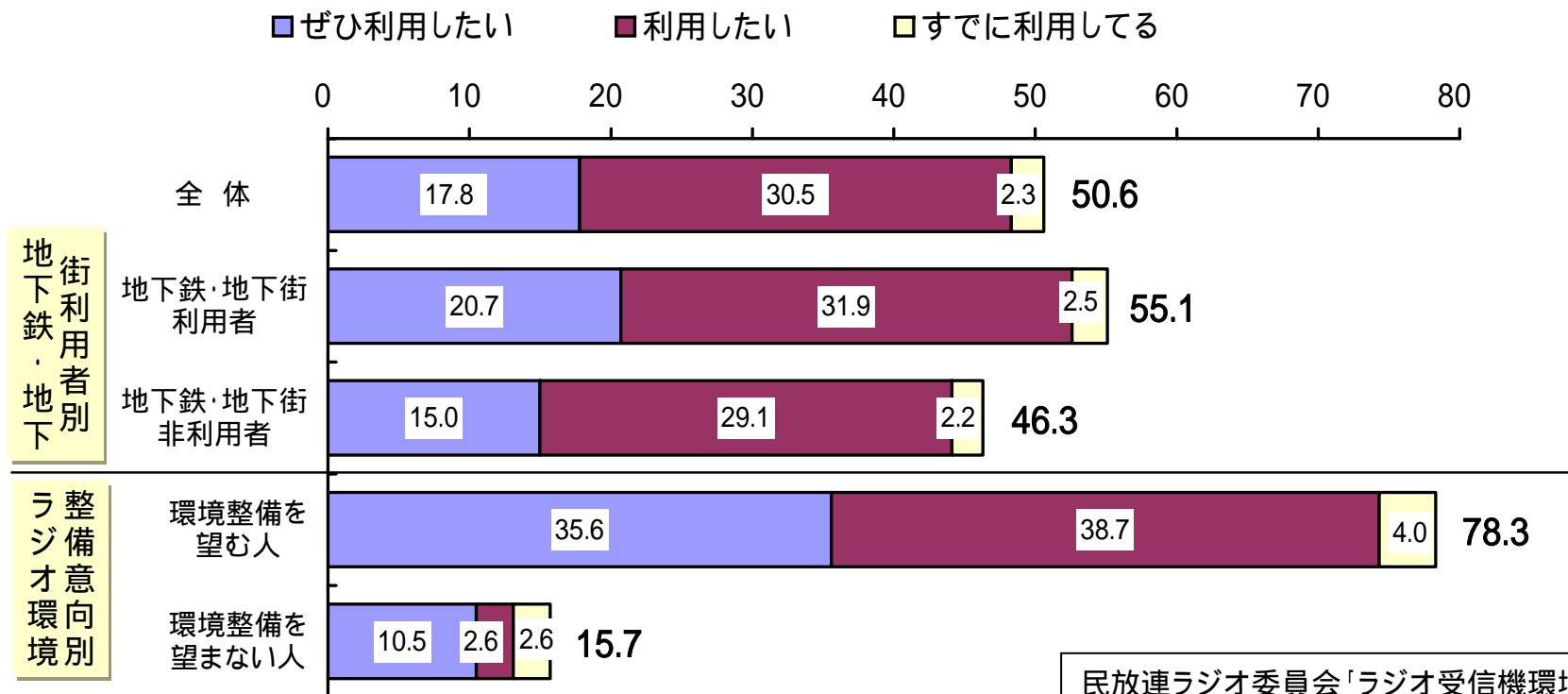
全ての地下鉄・地下街でラジオが聞こえるよう環境整備することについて



調査対象全体の63%が、全ての地下鉄・地下街でラジオが聞こえるようにして欲しいと望んでいる

地下鉄・地下街の利用頻度にかかわらず、“ラジオが全面的に聞こえるようにしてほしい”という声は多い！

地下鉄・地下街の多くでラジオが聞こえるようになったときのラジオ利用意向

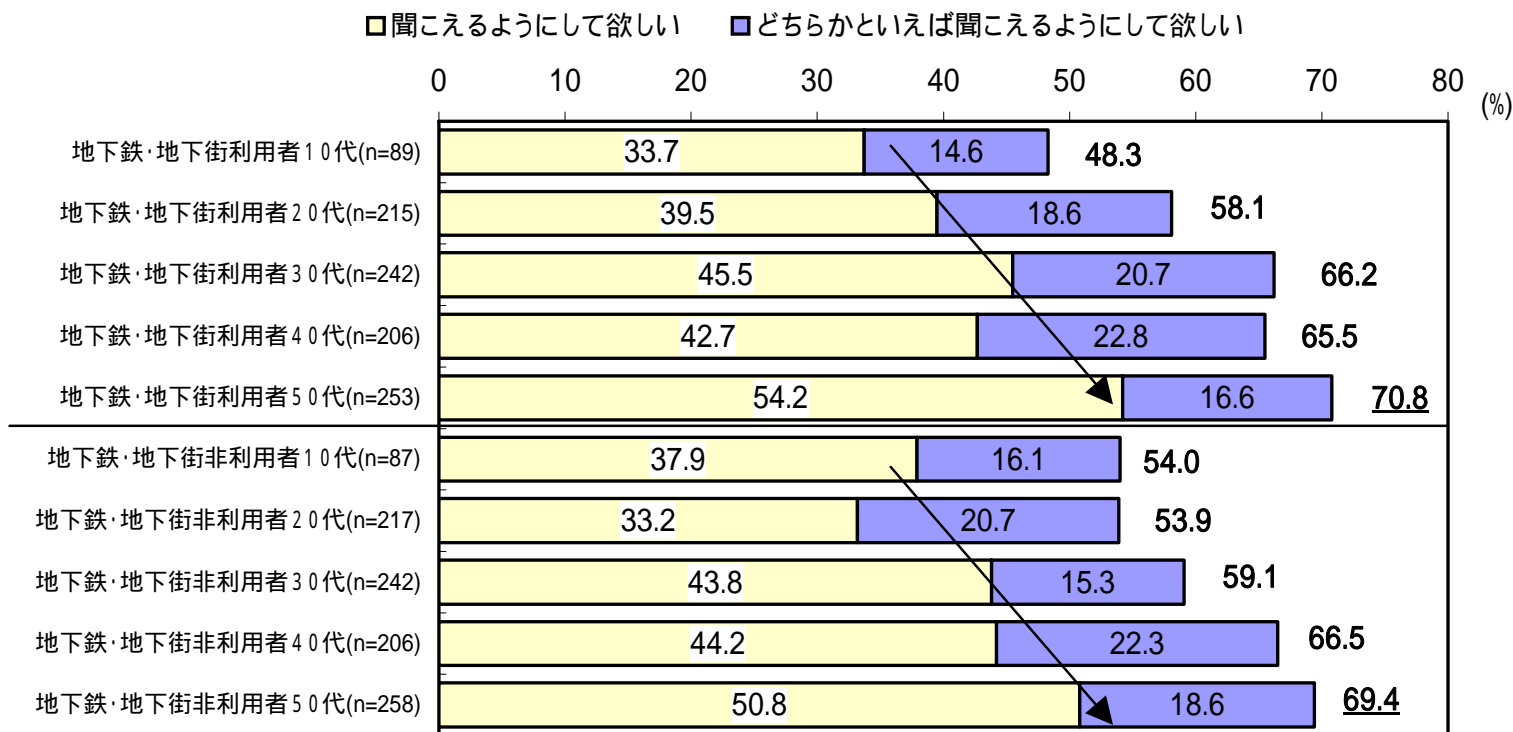


民放連ラジオ委員会「ラジオ受信機環境整備に関する調査」2004.11.26～2004.12.02
首都圏、京阪神、名古屋 2,015サンプル

地下鉄・地下街で全面的にラジオが聞こえるようになれば、調査対象全体の半数以上がラジオの利用意向あり。特に受信環境整備を望む人の利用意向は約8割。
"ラジオを聞きたい"という潜在的な利用意向は高い。

地下鉄・地下利用者年齢別

民放連ラジオ委員会「ラジオ受信機環境整備に関する調査」2004.11.26～2004.12.02
首都圏、京阪神、名古屋 2,015サンプル



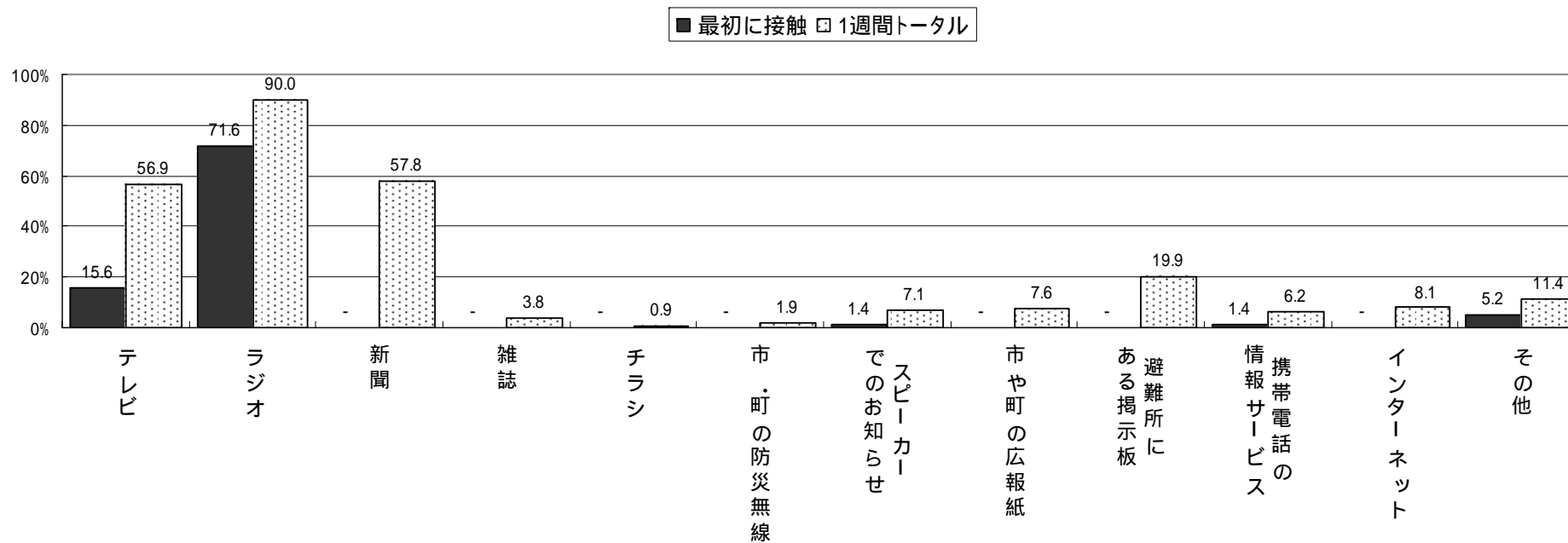
年代が上がるにつれ「ラジオを聞こえるようにしてほしい」と望む割合が高くなる。
特に50歳代では全体の7割に達する。

「災害時のラジオの聞かれ方についての調査」速報より

調査実施日 2004年12月18日

調査場所 新潟県長岡市、小千谷市、十日町市にて、211サンプル

メディア接触状況(N;全体 = 211)

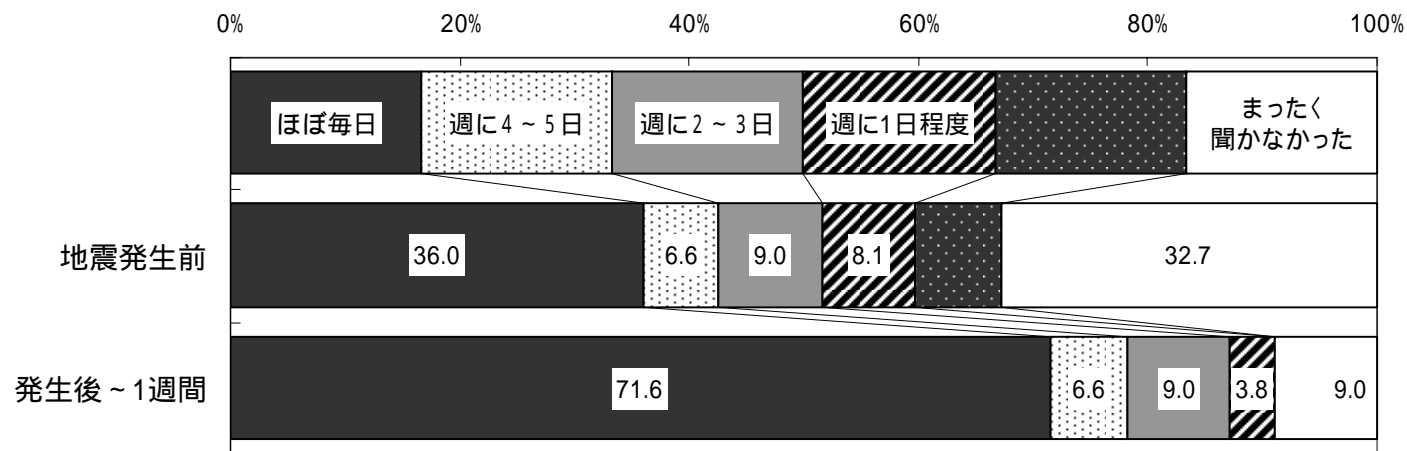


「災害時のラジオの聞かれ方についての調査」速報より

調査実施日 2004年12月18日 調査実施日 2004年12月18日

調査場所 新潟県長岡市、小千谷市、十日町市にて、211サンプル

地震発生前後でのラジオ聴取頻度 (N; 全体 = 211)

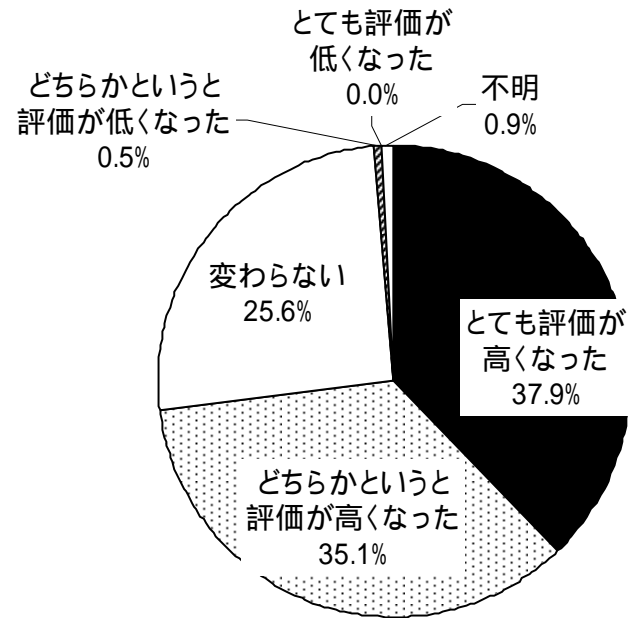


「災害時のラジオの聞かれ方についての調査」速報より

調査実施日 2004年12月18日 調査実施日 2004年12月18日

調査場所 新潟県長岡市、小千谷市、十日町市にて、211サンプル

地震発生後のラジオに対する評価変化(N;全体 = 211)



おしまいに

- デジタルの時代をむかえても、ラジオの特性は変わらず、役割を増すことはあっても縮小することはありません。身近で親しみやすいラジオ(デジタル、アナログ双方とも)に対する聴取者の、聴こえない地域の解消やもっとキレイな音で聴きたいという、要求は更に強まっています。こうした地下街、地下鉄、ビル影などの不感地域への対策は巨額な投資が必要とされています。

ラジオ業界としては総務省をはじめとする関係各省の御指導の下、交通事業者等と連携し関係者が一体となって不感地域解消を図る仕組みが一日も早く国民の要望に応えられる日が来ることを切望致しております。